

## ツール ド フランス・今年の競技界のことなど

ツールドフランス第1回目は1903年、自転車狂いだったというジャリのことだから見逃がすはずはあるまい。(先月号で紹介したアルフレッド・ジャリの“超男性”出版の翌年にツールは始まった。)リレーで学んでいたころのジャリは、アンリー・デグランジェの著作“頭と足”にのめり込んでいたとある。(生田耕作氏、ジャリ“超男性論”)。

デグランジェは近代アワーレコードの初代レコードホルダーであった。

自転車乗りを引退してからはスポーツ専門の報道に転向していた。そもそもツールの始まりは、ゲオ・ルフェブルという“ボルドー＝パリレース”の主催者が、このレースをフランス全土に展開しようと考え、その案をデグランジェに持ちかけ、実現したのだという。今ではツールの創始者といえばデグランジェということになっており、その功績はツールのチャンピオンジャージーの胸に彼のサインとなって印されている。

このところ地元フランスからチャンピオンが出ていない。昔からベルギー選手達は強力で、年間のレースの60%を制し、きつい峠越えとなるとスペイン選手が当然のごとく浮上してきて大差をつけてしまう。今年のツールには久々にイタリアの強力選手が出場するというから、例年より濃いレース内容となるだろう。

今年のジロデイタリアでは、まるで下馬評に載っていなかった、F. Faust BERTOGLIO (ベルトーリオ) があれよあれよといううちにローザトリコットをまとい、最後の文字通りの山場であるパスにおいて (Passo Della STELVIO 2757m) スペインのガルドヌにピッタリくらいについて、優

勝をものした。イタリアのファンは Faust II (ファウスト・コッピに類えて) と大喜びしているそうだ。2位ガルドス、41秒遅れ、3位ジモンディ6分18秒遅れ。

福島県、平で開催された全日本選手権ピスト競技会において、ノブシューター、ポインターのスピードアップが兆していた。

7月初旬段階で4000m、5分ということは世界のトップレベルといえよう。現時点では昨年の世界チャンピオンが板張りトラックで、4分59秒台、今期最高記録はR. クラッツァーで4分57秒台(この選手は平地のレコード4分45秒台を維持している)。

スプリントではアマチュア当時の岩崎誠一選手を凌ぐタレントに遇えなかった。

コペンハーゲンではスプリントの王者モルロンがカンバックしているという。

キロメーターの1分10秒台という優勝記録は、いささか低調。スペシャリストのフレボーは最近コペンハーゲンでフライング1000m、1分7秒だったというから、まだまだ引退する気になれぬだろう。

'75全日本選手権では、島野工業チームからの選手達が大活躍だった。やるべきことをやって、勝つべくして勝っているというところか。又渡欧しているスギノ鉄工所のスプリンターは、イタリアで良い成績で現在ロンバルジャ地方のチャンピオンになっているという。

学生の勢力後退は他のスポーツ種目でもいえることだが、自転車競技もその波を完全にかぶったようである。

〈文責：開発部 千葉洋三〉

カタログ 〒100をお送り下さい

### プロフェッショナルの材料

#### 石渡クロームモリブデンチューブセット群

SPECIAL FRAME TUBE SET (All crmo steel set)

- |                     |        |                      |        |
|---------------------|--------|----------------------|--------|
| ●015 ALPHA          | 1,595g | ●GLORIES VICTORY 019 | 1,955g |
| ●RECORD BREAKER 017 | 1,815g | ●ULTRA STRONG 024    | 2,360g |
| ●SPEED GALLANT 022  | 2,185g | ●FIRST LIGHT 026     | 2,475g |



石渡製作所

川崎市川崎区出来野9-8  
TEL 044-266-3934(代)